

第40回日本口腔インプラント学会大会

ケースプレゼンテーション試験を受験して

発表予演会の指導が支えになった

日時：平成22年9月17日(金)

場所：札幌市産業振興センター

佐藤 文明 (東京都)



平成22年9月17日、札幌市産業振興センターにて日本口腔インプラント学会の平成22年度ケースプレゼンテーション試験がおこなわれました。当日は今年の異常気象を反映して札幌らしからぬ強い日差しでしたが、一歩、木陰に入ると、吹く風は心地よく、初秋を迎えつつあることを感じました。

体育館のような広い会場内は少し汗ばむような暑さで、緊張感がありました。受験者数は201人、11ブースに分かれ、発表10分、質疑応答10分の合計20分間、2人の試験官の前でプレゼンテーションをするという形式で行われました。

試験開始に当たり、学会ホームページの要項にそって忠実に資料が準備できているか、パノラマ写真(術前、術後)、口腔内写真(術前、上部構造装着時、術後)、ポスター内容が学会の書式に一致しているかなども合否判定の判断基準になるとの説明を受けました。

基本的にこのプレゼンテーション試験は、確実な診査、診断ができているか、一口腔単位としてインプラント治療が行われているかをみることを主目的にしているとのことで、今年3月に都市センターホテルで行われた本研究会のケースプレゼンテーション発表予演会にて注意点や問題点を的確に指導していただけたおかげで、万全の準備で望むことができました。

今回の発表に際してできるだけシンプルな症例を、との指導を受けましたが、実際はパノラマ写真や口腔内写真が欠けていて資料が揃わず、統一した資料を準備する難しさを感じ、症例選



択には苦労しました。質疑応答では、あまり厳しい質問は出ませんでした。ごくごく簡単な1歯欠損の症例を選択したほうが無難であり、もっと楽なケースを報告すればいいのにとアドバイスされる先生もいたようです。私の症例も抜歯待時にした理由、補填材を使用しなかった理由などの質問を受けました。

今回、当会から受験された先生方は全員合格されていたそうです。これも当会の諸先輩がたの御指導のおかげであり、この場をお借りしまして井汲会長をはじめ、ご教示いただきました諸先生がたに厚く御礼申し上げます。これからも専門医取得をめざすべく、研修を積み重ねるつもりでおりますが、今後とも宜しく御指導お願いいたします。